

## talk! talk! talk! 女優、歌手・ソニンさん



女優、歌手

### ソニンさん

歌手としての知名度はもちろん、最近ではドラマや舞台に出演し強い存在感で女優としても注目されているソニンさん。2006年には韓国で歌手デビューを果たし、さらに活躍の場を広げている。写真を撮始めたのは友人からの影響だという彼女。今ではいろいろな被写体に果敢に挑戦しているという。そんなソニンさんの写真ライフを、楽しいエピソードとともにたっぷりとお話していただいた。

#### プロフィール

そにん。1983年、高知県生まれ。2000年にEE JUMPとして歌手デビュー。5枚のマキシシングルリリースを経て2002年に解散。同年にソロデビューし、その後は歌手活動の他に女優としても活躍。また、自身のブログやメールマガジンで配信されるコラムでは、活字で表現される彼女の言葉が人気を集めている。

主なCDに「カレーライスの子」「合コン後のファミレスにて」「ほんとはね。」「華」「あすなろ銀河」など。

主なドラマ・映画に「高校教師」(TBS系)「元カレ」(TBS系)「東京湾景」(フジテレビ系)「いちばん暗いのは夜明け前」(テレビ東京)「空中庭園」(豊田利晃監督)「バックダンサーズ!」(永山耕三監督)など。

主な舞台・ミュージカルに「8人の女たち」(江守徹演出)「スウィーニー・トッド」(宮本亜門演出)「血の婚礼」(白井晃演出)など。2008年1月より、東京・日生劇場で公演予定のミュージカル「ベテン師と詐欺師」(宮田慶子演出)に出演が決まっている。

## Beginning 出会い

### 写真は自分を表せるもの そう気づかせてくれた友人の写真

写真を撮ることをきっかけに、友人から写真の魅力を教えてもらった。

本格的に始めたのは4年半前くらいで、きっかけは宮崎あおいちゃんでした。それまで、コンパクトカメラは持っていましたが、写真といえば撮られる側でしたし、自分が写真を撮ることに特に興味があったわけではなかったんです。でもあおいちゃんと友達になって、一眼レフカメラで写真を撮っているという話を聞いたんです。写真を見せてもらったら彼女自身の視点で切り取られている世界観をすごく感じる事ができて、とても素敵だなと思いました。同時に、私が撮ったらまったく別のものができるんだらうなと想像が膨らんで、自分でも撮ってみたい!と思うようになったんです。

自分自身がどんな写真を撮るのかに興味がありました。

はい。写真はコップひとつ撮るにしても、フレームにどこまで入れよう、どのくらいの距離から撮ろうなど、撮影する人によって全然違うものになりますよね。ようするに、自分の作品を作り出せるツールなんだということに気がついたんです。もともと何かを作るのが好きだったこともあり、写真を撮り始めようと思いました。それでフィルムの一眼レフカメラを買ったんです。撮り始めた頃、あおいちゃんとは手紙のやり取りをしていたんですが、お互いのお気に入りの写真を1~2枚同封して送り合ったり、返事を書く際には写真に対してのコメントを添えたりして楽しんでいました。

カメラの操作はどうやって覚えたのですか？

一眼レフカメラといってもオート機能を使っていたので、初めから苦労することなく撮れていました。特に誰かから教わったわけではないので、詳しい事はわかりませんが、技術ももちろんないんです。でも、自分なりに研究しましたね。たとえば絞りを開放にしたり絞り込んだりと極端に調節して撮ったり、シャッタースピードをわざと遅くしてみたり.....自分で撮影し、仕上がりを確認しながら覚えていきました。

仕事で写真を撮られる機会も多いと思いますが、ご自身で写真を撮るようになってから、撮られる側として意識が変わったと感じることはありましたか？

変わらないですね。撮られる側は撮られるのを待つだけです。シャッターを押す人が写真を撮る上では全ての決定権を持っているので、おまかせして身をゆだねるだけです。でも自分が写真を撮り始めたことで、今撮られている写真がどんな風に仕上がるのか、という想像力はついたように思います。ライトや太陽の位置で今自分にどんなふうに光が当たっていて、どんな構図になっているのか、私はどういうポーズをとった方が良い絵になるのかなどということを考えられるようになりました。

## Pleasure 楽しみ

### 撮りたい衝動にかられ 旅に出ること

普段カメラは持ち歩いているのですか？

コンパクトカメラはいつも鞆に入れていますが、一眼レフカメラは持ち歩かないですね。私の場合、毎日しょっちゅう撮るといってではなく、たとえば地方や海外へ行くときにカメラを持って行って撮ることが多いです。撮るぞ!と思ったときに撮りに出かけますね。

撮影モードのオンとオフがはっきりしているのですか？

そうですね。日常生活の中でも気になったものあれば、コンパクトカメラで撮ったりしますが、一眼レフカメラで撮るときとはまた別の感覚なんです。だから普段、常に写真を撮ることを意識しているというわけではないですね。逆に撮りたいと思ったら、撮影旅行に出かけたりもします。

どんなところへ行かれるのですか？

たとえば、海が撮りたいと思ったとき、海外へ行くのが時間的に難しかったので国内できれいな海があるところを考えたんです。そのときに奄美だ!と思いついて撮影旅行に出かけました。でも着いたら台風で.....。きれいな海の風景はまったく撮れなくて、荒れ狂う海を撮ってきたね(笑)。京都へ紅葉を撮りに行ったときは、JR東海の「そうだ 京都、行こう」のCMに触発されて一人で旅立ったんです。現地でレンタカーを借りて、紅葉の景勝地巡りをしました。

被写体が明確で、それを撮るためにはとても行動的なのですね。



はい。撮りたいと思うものがあれば、積極的に動きます。以前月を撮りたいと思ったときは、三脚と望遠レンズを買いそろえて長時間露光に挑みました。何度か月の撮影をしましたが、まだ月の中のうさぎは撮れていないですね（笑）。また、あるとき家路を歩いていたら、大きくて真っ赤な不思議な月が浮かんでいたことがあったんです。そのときはもうとにかく必死で家まで走って帰って、三脚とカメラを引っ張り出してきたりして。結局準備が整ったときはもう普通の見慣れた月になってしまっていたんですけどね。

三脚に望遠レンズとはとても本格的ですね。機材は他にも何かお持ちなのですか？

カメラは、普段持ち歩いているコンパクトカメラと一眼レフカメラの他に、二眼レフカメラやトイカメラもいくつか持っています。魚眼レンズなんかもありますね。自宅のコレクションケースに並べて入れてあります。撮りに出かけようと思ったときは、そのコレクションケースからフィルムの入っているカメラを選んで持っていきます。でもやはり一番ペースで使っているのは一眼レフカメラですね。

---

## Photo's 作品紹介

ノスタルジックな雰囲気も漂う ソニンさんのお気に入り写真

---



1 近所の道ばたでパンジーを撮った1枚。  
写真を撮始めた頃に撮ったもので、とても気に入っています。私の代表作ですね。



2 電線が張り巡らされた都会の空です。



3 お弁当を作って友達と行ったお花見の風景。  
露出オーバーでこういったプリントになってしまったのですが、逆にそれがいい雰囲気になりました。



4 奄美の台風雲。南の島で見た、あやしげな雲と太陽が浮かぶ空。



5 京都にて。二眼レフカメラで紅葉とネコの背中を収めた写真。



6 バリ郊外の空。たくさんの飛行機雲が印象的でした。



7 今年の夏の線香花火。

---

## Future これから

### 人と向き合い いい表情を切り取りたい

何を感じたときにシャッターを押すのですか？

いい絵が撮れそう！と思ったときですね。これは写真にしたらよさそう、良い作品が撮れそうと思ったときに撮影します。

そのときの高まった感情がシャッターを押させるといよりは、仕上がりをイメージして良い写真になると確信したときに撮るといった感じなのです。

そうですね。自分の思い出とかを残そう、この風景を写真にとどめておきたいということではなく、私は作品としての写真を撮りたいんです。思い出はビデオや写真に残しておくというよりも、心や目に焼き付けたいと思っているんです。だから写真は自己表現、作品ですね。

ソニンさんにとって写真の魅力とはなんですか？

光を捉えることの出来るカメラならではの奇跡が写真上に表れる、私にとってそれがとても面白いですね。たとえば、空はよく撮る被写体なのですが、空にあふれている光の風景って肉眼で見ると写真に写した方が魅力的だと思うんです。シャッターを押すとき自分が見ているそのままの景色よりも、写真に写った景色の方が断然美しく写るときがある。奇跡みたいなことですね。

自分の想像を越えた結果が得られる。そういった、いい意味での裏切りがあったときなどはとても興奮しますね。撮っても撮ってもまったく同じようなものは撮れないから、楽しくて飽きずに続けられる。それに、やはり私は自分の視点によって景色がアレンジされ、それを写真で表現できることが面白くてしょうがないんです。

では、今後写真で挑戦したいことなどはありますか？

これからは人など、静物ではなくて動物が撮りたいですね。動いているものを私が撮ったらどういう写真になるのかなというところに興味があります。特に人の“良い顔”を撮れるようになりたいです。今までまったく撮ってこなかったというわけではないのですが、やはり風景の方が多いですし、人を撮った写真の中にあまりいいものが見つからないんです。それはどうしてかと考えたりもするんですね。人と向き合い、その人を撮るとき私と被写体の間には壁があるのかななどと思ったりもします。

撮った写真を見て、自分の心に気づくということですか？

そうですね。そういう部分もあります。人がうまく撮れないということは、私は人と向き合うとき、意外と素直に向き合っていないのかな、自分の思いばかりを主張しているのかなとか。そういえば私は人の心を開かせることが得意じゃないな、と考えたりするんです。それに、明るい写真も撮っているはずなのに、なぜかお気に入りの写真は結構ダークな感じのものが多かったりだとか（笑）。そういった意味で写真から自分の内面に気づかされることは結構ありますね。

これからは写真とどのようにつき合っていきたいですか？

こだわり過ぎてマニアっぽくはなるのではなくて、今まで通り自己表現のひとつとして写真を撮っていただけいいなと思います。実は最近ずっと使っていた一眼レフカメラを売って、新しくマニュアルでフィルムの一眼レフカメラを買いたいと思っているところなんです。自分が気に入るカメラを見つけて、またこれからも写真を撮楽しんでいきたいですね。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.